

◆ 今週のコメント

- ・ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(80歳代男性)(第23週追加報告分)ありました。症状は胆嚢炎です。感染地域は国内です。本年の累積報告数は12例となりました。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(70歳代男性)あり、症状は発熱、菌血症です。感染地域は国内で、感染経路は不明です。本年の累積報告数は17例となりました。
- ・ 梅毒の報告が2例(20歳代及び50歳代男性)(第23週追加報告分含む)ありました。本年の累積報告数は30例となりました。
- ・ バンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告が1例(80歳代男性)あり、症状は発熱、腹膜炎です。感染地域は国内です。本年初めての報告例です。

◆ 今週のトピックス: <狂犬病>

2020年5月、14年ぶりに愛知県で狂犬病が1例報告されました。国内において狂犬病は、戦後すぐのピーク時には動物で年間約900例、ヒトで80例近い報告がありましたが、50年代後半に猫での発生を最後に撲滅されています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 5例(肺結核 2例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 112例(肺結核 55例, その他結核 22例, 潜在性結核感染者 35例)うち喀痰塗抹陽性 25例】
- ・ 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 12例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 17例】
- ・ 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 30例】
- ・ 五類:バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

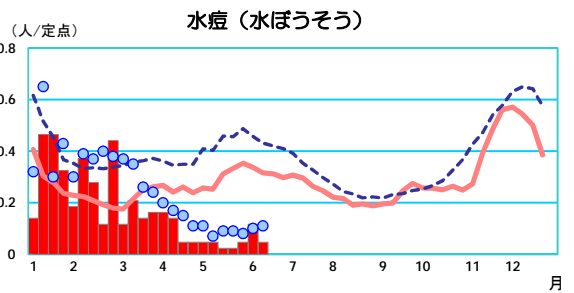
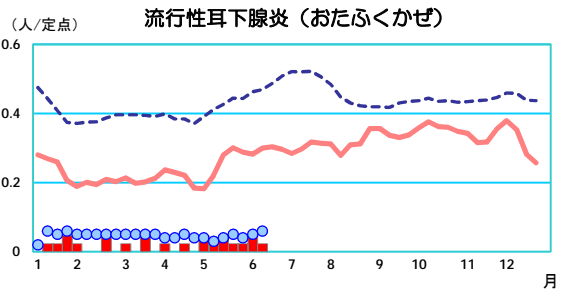
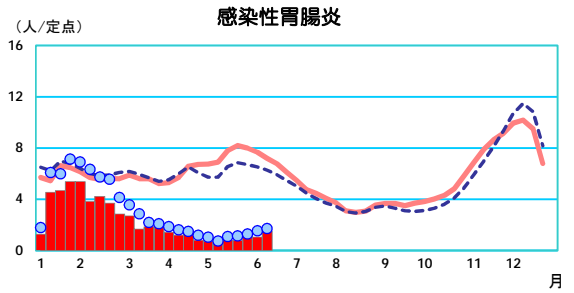
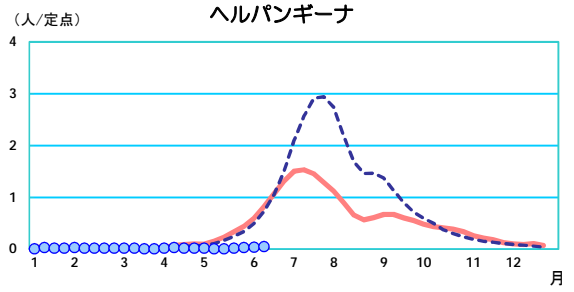
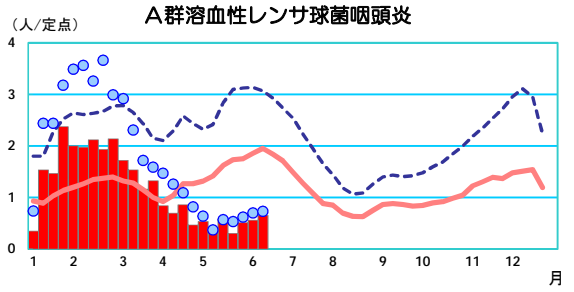
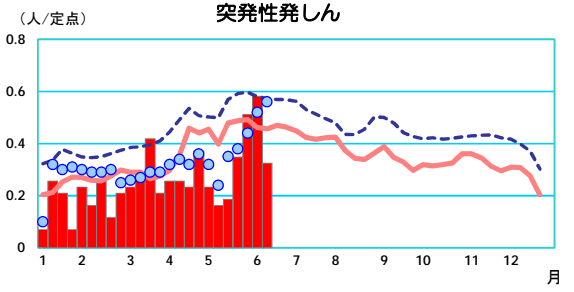
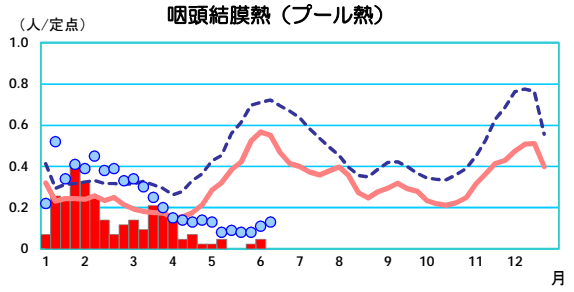
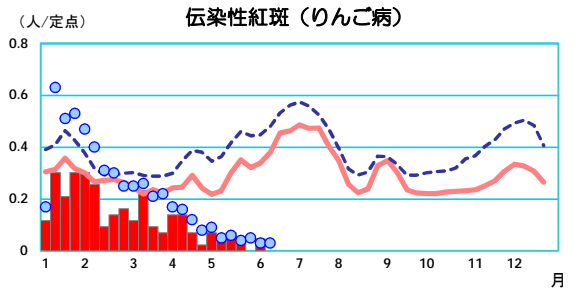
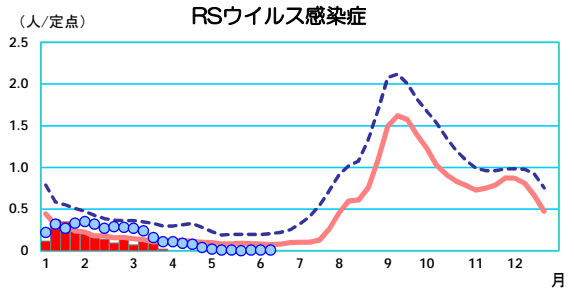
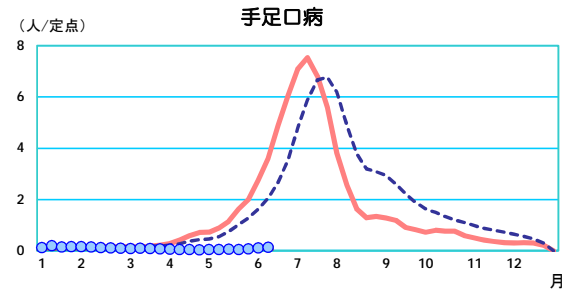
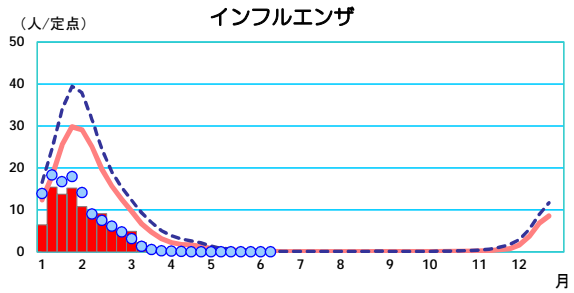
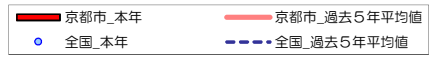
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.51	65
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.65	28
	③ 突発性発しん	0.33	14
	④ 手足口病	0.19	8
	⑤ 水痘	0.05	2
	⑤ ヘルパンギーナ	0.05	2
眼科	流行性角結膜炎	0.00	0

【次ページ以降の主な内容】

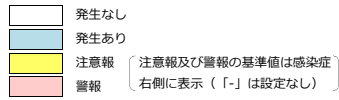
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <狂犬病>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2020年6月17日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

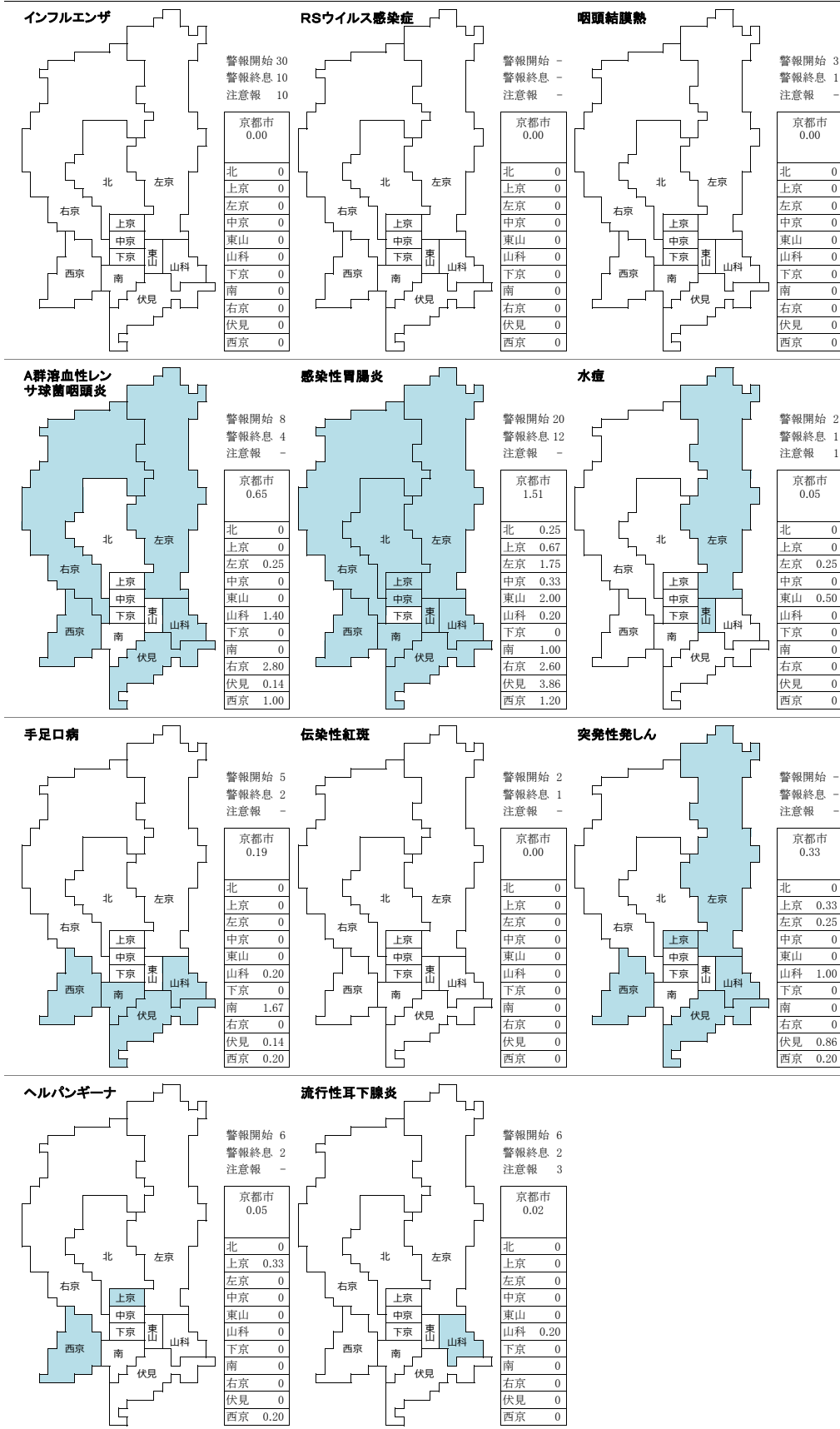
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第24週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。」



第24週(6月8日～6月14日)トピックス:<狂犬病>

2020年5月、14年ぶりに愛知県で狂犬病が1例報告されました。国内において狂犬病は、戦後すぐのピーク時には動物で年間約900例、ヒトで80例近い報告がありました(図1)、50年代後半に猫での発生を最後に撲滅されています。しかし、海外では依然として狂犬病が流行しており、1970年に1例、2006年に2例(うち1例は京都市)の海外からの輸入事例が報告されています。本例もフィリピンで犬の咬傷から感染したとみられ、6月に死亡が報じられました。

狂犬病の原因は、ラブドウイルス科リッサウイルス属に分類される、狂犬病ウイルス(Rabies virus)です。エンベロープを持つRNAウイルスであり、弾丸型と称される独特の形状をしています。罹患動物に噛まれたり舐められたりすることで感染し、およそ1～3箇月の潜伏期間を経て発症します。発症すると発熱などがある前駆期、恐水・恐風症状や精神錯乱、幻覚などが起こる急性神経症状期、そして昏睡期を経てほぼ全例が死亡します(ワクチン未接種で発症後、生存した症例は世界で6例のみ)。発症後の有効な治療法はありませんが、ワクチンで予防でき、罹患動物に暴露後でもワクチンで発症を防ぐことができます。

WHOは、世界で年間5.5万人が狂犬病によって死亡していると推定しており、日本とイギリス、スカンジナビア半島の国々などごく限られた地域を除いて、現在も世界中で流行しています(図2)。海外に渡航する場合は、むやみに動物に近寄らないことが肝要です(狂犬病はイヌだけでなく、ほぼ全ての哺乳類が感染します(図3))。厚生労働省は、動物との接触が避けられない、または近くに医療機関がない地域に長期間滞在する方は、渡航前に予防接種を受けることを推奨しています。

日本では検疫によって国内への侵入を防いでおり、仮に検疫をすり抜けて侵入しても、国内の犬の多くが狂犬病に対して免疫があれば、定着を防ぐことができます(集団免疫)。このため、日本では狂犬病予防法によって犬を飼う場合は市町村に犬の登録を行い、毎年、狂犬病の予防接種を受けなければならぬと定められています。この義務を怠って登録や予防接種を受けていない犬は、捕獲・抑留の対象となり、飼い主には20万円以下の罰金が科せられます。

WHOは、犬の予防接種率70%以上を達成するよう勧告しています。かつて、日本の狂犬病予防接種率はほぼ100%でしたが、年々減少し、厚生労働省調査によれば2018年の予防接種率は71.3%とされています(*3)。しかし、狂犬病予防法による全国の犬の登録頭数は約623万頭であるのに対して、別の調査では890万頭と推定されており(*4)、実際の予防接種率は半分に満たないと推測されます。このままでは集団免疫を維持できず、狂犬病の侵入を防ぐことが難しくなります。犬を飼われている方は、社会に対する責務として、犬の登録と年1回の狂犬病予防接種を必ず行いましょう。

○京都市情報館ホームページ「犬の狂犬病予防法に基づく登録と、狂犬病予防注射について」
(<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000113438.html>)

図1. 日本の狂犬病発生状況(*1)

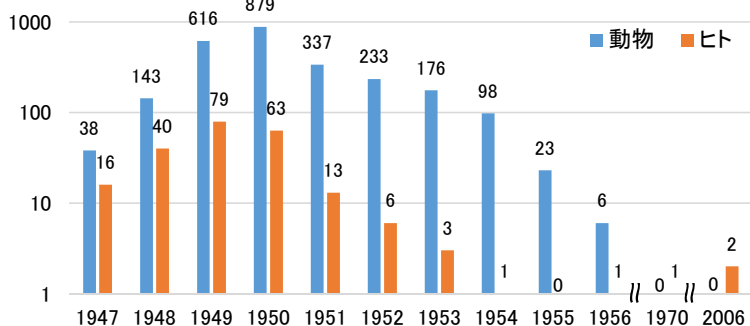
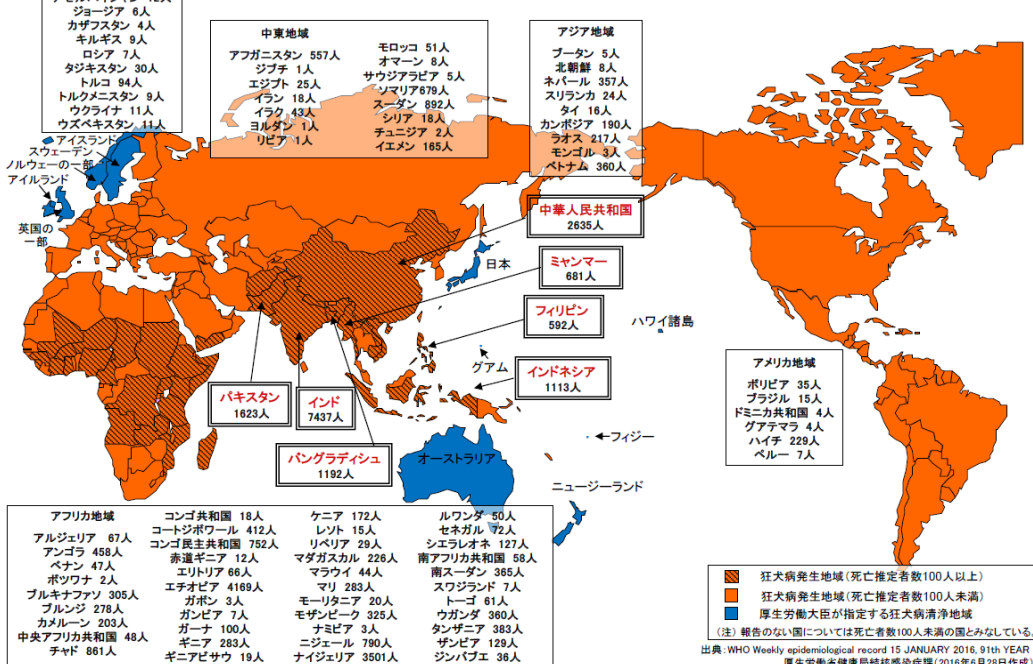


図3. 世界各地の狂犬病媒介動物(*2)



図2. 世界の狂犬病発生状況(2016年6月28日現在)



(*1) 以下のウェブサイトより作成(以下、全て2020年6月15日閲覧)
人と動物の共通感染症研究会「我が国における犬の狂犬病の流行と貿易の歴史4」
(<http://square.umin.ac.jp/hdtkk/topics/rabi0104.html>)
IASR「狂犬病 2006年現在」
(<http://idsc.nih.gov/jiasr/28/325/tpc325-j.html>)

(*2)厚生労働省「狂犬病」より引用
(<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou10/>)
(*3)厚生労働省「都道府県別の犬の登録頭数と予防注射頭数」
(<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou10/01.html>)
(*4)一般社団法人ペットフード協会「平成30年 全国犬猫飼育実態調査 結果」
(<https://petfood.or.jp/topics/img/181225.pdf>)

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第24週

疾病,行政区別報告数

2020年6月8日～2020年6月14日

データ入手日:2020年6月17日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	1	7	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	7	1	-	1	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	3	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	-	14	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	1	27	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	5	6	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	-	28	65	2	8	-	14	2	1	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	0.67	-	-	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	0.25	1.75	0.25	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	2.00	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	1.40	0.20	-	0.20	-	1.00	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	1.00	-	1.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	-	2.80	2.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	-	-	0.14	3.86	-	0.14	-	0.86	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	1.00	1.20	-	0.20	-	0.20	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	-	0.65	1.51	0.05	0.19	-	0.33	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第24週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年6月8日～2020年6月14日

データ入手日:2020年6月17日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		28	-	-	2	2	4	1	5	2	1	3	-	2	1	5						
感染性胃腸炎		65	-	5	7	5	7	3	5	1	4	3	3	13	2	7						
水痘		2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		8	-	1	3	1	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		14	-	6	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		2	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.65	-	-	0.05	0.05	0.09	0.02	0.12	0.05	0.02	0.07	-	0.05	0.02	0.12						
感染性胃腸炎		1.51	-	0.12	0.16	0.12	0.16	0.07	0.12	0.02	0.09	0.07	0.07	0.30	0.05	0.16						
水痘		0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.19	-	0.02	0.07	0.02	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.33	-	0.14	0.16	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.05	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第24週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年6月17日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	1	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	2	-	-	1	2	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	17	25	13	22	24	28
感染性胃腸炎	25	34	33	46	45	65
水痘	2	1	1	2	5	2
手足口病	4	2	5	5	6	8
伝染性紅斑	2	3	2	-	2	-
突発性発しん	7	8	15	22	25	14
ヘルパンギーナ	-	-	1	1	4	2
流行性耳下腺炎	1	2	1	1	2	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	1	1	3	-	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	60	76	72	104	115	120

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	0.01	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.05	-	-	0.02	0.05	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.40	0.58	0.30	0.51	0.56	0.65
感染性胃腸炎	0.58	0.79	0.77	1.07	1.05	1.51
水痘	0.05	0.02	0.02	0.05	0.12	0.05
手足口病	0.09	0.05	0.12	0.12	0.14	0.19
伝染性紅斑	0.05	0.07	0.05	-	0.05	-
突発性発しん	0.16	0.19	0.35	0.51	0.58	0.33
ヘルパンギーナ	-	-	0.02	0.02	0.09	0.05
流行性耳下腺炎	0.02	0.05	0.02	0.02	0.05	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.10	0.10	0.30	-	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	1.40	1.84	1.75	2.64	2.67	2.79

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。